



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

♥ホームページ URL <http://www.oikawahp.net>♥Eメール address info@oikawahp.net

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 30 2013年11月発行

患者様の権利と義務

患者様には「ご自身が生命の主人公」として、医療従事者とのよりよい人間関係を築いていけますよう以下の「守られていること」「守っていただきたいこと」があります。

人 格 権

患者様は個人としての人格、価値観などを尊重されます。

受 療 権

いつでも必要かつ十分な医療サービスを受けるために、医療機関を選択する権利があります。

知 る 権 利

病名、病状、診療計画、検査・手術、薬、必要な費用などについて、納得できるまで説明を受ける権利があります。

同時に、私たちに既往歴、現病歴、現在の治療内容、アレルギー歴など健康に関する情報を正確にお伝えください。

自己決定権

十分な説明を受け、理解した上で、提案された診療計画などを自らの意志で決める権利があります。

同時に、それらの内容に関する指示を守る義務があります。納得できない場合は、他の医師や医療機関の意見を求めることができます。

プライバシーに関する権利

個人の秘密や医療に関する個人情報を守られ、私的なことにみだりに干渉されない権利があります。

参加する権利

診療内容や病院の運営につき苦情や意見を述べ、医療改善の活動に参加する権利があります。安全性を高めるためお名前確認などにご協力ください。

「今年のピンクリボン月間とホスピス週間」

毎年この時期には二つのイベントが重なり、診療や看護以外で忙しくなります。しかし継続は大切なことで、ピンクリボン月間恒例のグッズ作成では今年はピンクリボンデザインではなく「啓蒙川柳・標語」コンクールを行いました。職員が自主的に考案したイベントで、たくさんの方が集まりました。どれもこれもよく考えられており、専門職に携わることへの意識が根付いてきていると院長として誇らしくなりました。その思いが通じたのか、今年の街頭活動は新聞でも取り上げられ、記事を読まれた方が多数検診の申込みをされました、中でも日曜日に検診ができた『ジャパン・マンモグラフィ・サンデー』はすべての予約が埋まり、この行事の目的が達成できたと考えております。一方で、受診された方々のアンケートを読んでみますとほとんどの方が初めての検診でした。イベントの目的に沿った結果でしたが、まだまだ受診率の改善には至っていないことを痛感したのも事実です。今後も更なる啓蒙活動が続けていく必要があります。ホスピス週間ではピアノとソプラノによるコンサートを開き、患者さんとそのご家族様にたくさんお集まりいただきました。緩和ケア病棟には年2回少年少女合唱団が歌を披露に来てくれているのですが、実は今回のコンサートのソプラノの方はその合唱団を卒業された方でした。不思議なご縁を感じるとともに、やはり良いことは続けていくべきだと思った10月でした。



ピンクリボン川柳

及川病院は毎年ピンクリボン活動に取り組んでいます。その活動のひとつとして今年は「ピンクリボン」をお題とした川柳を職員が考えました。患者様に投票していただいた結果、75作品の中から次の作品が選ばれました。得票上位作品と合わせてご覧ください。

最優秀賞

検診は あなたの不安の しこりとする

優秀賞

忙しい あなたが行かず 誰行くの？
守りたい あなたと胸と 幸せと

手を広げ みんなで繋ぐ リボンの和
広めよう すべての人に ピンクの輪
マンモの時だけ あって良かった 皮下脂肪(笑)
決めている 誕生日月には 検診と
不安なら ここで検診 受けてみて
迷うなら まずは検診 受けてみて
悩むより 受けて安心 おっぱい検診



正面玄関入口に全作品を掲示して患者様に投票していただきました



最優秀賞を受賞しました



平成25年ピンクリボン活動報告



ひらぐら市場はあいにくの雨模様でしたが、天神での街頭活動は良い天気にも恵まれました。乳がん検診の呼びかけには様々な反応があり、年々乳がんに対する関心が高まってきているように思います。ご主人と一緒に乳房モデルを使った自己検診方法を聞かれる方や、熱心に検診内容について質問される方、すでに乳がん検診を受けたあるいは予約をしているという方もいらっしゃいました。足を止め私たちの説明を聞いてくださる方には、小さいお子さんをお連れのお母さんや、周りに乳がんを患った人がいるという方も多くみられました。しかし、中には「おっぱいが小さいから関係ない」「年を取ってるから今更…」というような反応もあり、改めて乳がん検診の啓蒙活動を継続していくことの大切さを感じました。

★ひらぐら市場 10月5日(土)★



★街頭活動～天神～ 10月18日(金)★

天神での街頭活動が西日本新聞に掲載されました。



★J. M. S ～ジャパン・マンモグラフィーサンデー～10月20日(日)★

この日は日曜日に乳がん検診を受けられる日でした。日々仕事や家事・育児に追われて乳がん検診に行く暇もないという女性達のため年に一回行っています。予約枠は全て埋まり、多くの方が次回も検診を受けたいと希望されていました。

～放射線科便り～

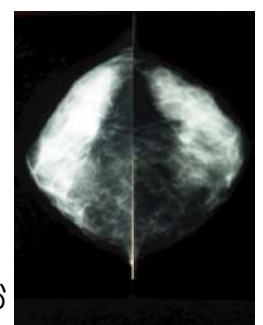
マンモグラフィとは？

乳房のX線撮影のことをマンモグラフィといいます。乳房を片方ずつ板で薄く圧迫して撮影します。

乳房は大きく分けると乳腺組織と脂肪からなっており、マンモグラフィはこの2つの状態を全体的に見ることができ、視触診では発見されにくい腫瘍や石灰化の早期発見に役立ちます。

マンモグラフィ検査を受けたことのある人は胸を引っ張られてギュッと押えられて痛かったという感想の方も多いと思いますが、診断に適した画像を得るために十分な圧迫が必要です。圧迫することにより乳房内の構造がよくわかり、被爆の量を軽減できます。

当院ではマンモグラフィ撮影技術認定を取得した女性技師が検査を担当しております。検査を受けるにあたり不安や疑問のある方はお気軽にお尋ねください。





平成25年 及川病院 夏祭り



今年の猛暑にも負けず、8月3日緩和ケア病棟では夏祭りを開催致しました。何といっても、今回は（毎年サービス精神旺盛な及川院長ではありますが）松竹映画代表作「男はつらいよ」でお馴染みのフーテンの寅さん姿での登場！患者様一同の笑いを掴んで夏祭りを盛り上げて頂きました。カラオケ大会では稲光先生と患者様とのデュエットもあり、ちょっとだけお化粧して出番待ちをしている患者様の可愛らしい姿が印象的でした。夜は日暮れを待ってのカクテルサービスと4階ガーデンで花火大会。ご参加頂いたそれぞれのご家族の輪の中には、花火の光と一緒に思い出の時間が記されていた様に感じました。



ホスピス緩和ケア週間 及川病院コンサート



平成25年10月12日（土）は世界ホスピス緩和ケア・デイ。日本各地で緩和ケア普及啓発活動が行われ、当病院でも古森夏来さん（ソプラノ）草場富美子さん（ピアノ）によるアヴェマリアや秋らしい日本の歌の数々が歌われました。稲光先生も1曲だけ…のつもりが患者様やご家族の笑顔につられ2曲3曲…、最後は皆での大合唱となり、秋の日差しと歌声で談話室は温かい雰囲気になりました。



顧問 野村 雍夫

乳癌の手術時にすでに潜在的な転移が起こっている可能性が高いのです(このことは、手術で腫瘍を摘出するだけでは治療として不十分であることを意味します)。また、乳癌の再発パターンとその後の生存期間は他の癌に比べて非常に多様です。さらに、再発、転移する臓器も様々であり、再発後の生存期間も正確には予測できません。

このような乳癌の特徴は、乳癌が一つの疾患ではなく、様々な性格をもつ複数の癌の集合であるためであると考えられるようになりました。したがって、一律な治療は不適切であり、それぞれの乳癌の性格に応じた治療を目指すようになりましたが、現在ではなお不十分です。

これまでも、一人一人の患者さんの手術後に、再発しないか、再発しやすいか、どのくらいの時期に再発しやすいかなど(予後)を予測しようとする努力が行われてきました。

予後因子は初回手術の際の乳癌の生物的性格や臨床病期、患者側の因子に基づいて再発・死亡のリスクを評価し、個々の患者の予後(再発や生存の見込み)を予測するのに重要であり、治療の選択の助けとなります。

臨床病理学的予後因子として、年齢を含む宿主側の因子、ホルモンレセプター発現、腫瘍の大きさ、リンパ節転移、組織型、組織学的グレード、血管/リンパ管侵襲、ホルモンレセプター、HER2などの癌遺伝子発現、EGFRなどの増殖因子およびそのレセプター、Ki-67などの増殖度、血管新生因子、遺伝型、遺伝子発現プロファイリングなどが提唱されています。これらが再発に関与し、術後補助療法の効果を修飾する可能性があります。

しかし、このように数多くの予後因子が存在することは、現在再発・転移を十分に予測することができないことを示しています。現在でも最も信頼性のある予後因子はセンチネルリンパ節を含めて、リンパ節転移の有無と転移リンパ節数です。リンパ節転移の有無は乳癌の再発リスクを限定する最も重要なパラメーターであるが、治療効果を予測しない。

このように、個々の患者さんの乳癌の手術後の再発・転移を予測することは、術後補助療法を必要としているか、どのような治療が最適であるかを決定することに直結します。つまり、再発のリスクが高い場合にはある程度副作用があっても効果の強い治療法を選択し、リスクが低い場合には副作用が強い治療法は必要でないか、無治療でよいかもしれません。

現在、急速に普及しつつあり、最も信頼されつつある再発を予測する方法が2つあります。遺伝子発現プロファイリングに基づいた方法と、免疫組織化学法によるER、PgR、HER2、Ki67の組み合わせによる方法です。次回から、これらについて詳しく述べます。